# 生方義夫 作品集1　歌詞

## 岩手山

作詞　水原　一

たゝなはる
したがへて
渡る日に
いたゞきは

物すべて
枯れ枯れの
たちまちに
きざみなす
高ぞらに
あを雲は

かきくらし
まばゆしや
片そぎの
北上の
吹きくだり
水よどみ

建きかも
雄々しきかも
しかすがに
月の輪の
うつくしきかも

山並いく重
立ちける姿
峰ひだかげり
光しづもる

野に凍るとき
を草のいぶき
はやてとかけり
尾の上をよぢて
群れうづまけば
天つ炎か

神荒るゝ時
しろがね煙
裾になだれて
眞底の谷に
散りてしぶけば
かばの花なす

岩手高峰
岩手大峰
静けき夜べは
うつろひゆきて

## 北上川

作詞　水原　一

えぞ國の
日も暗き
しだの葉を
幼な歌

谷路這う
なだれ雪
くだけ落ち
北上は
血にはやる
ひた駈けり
掻きにごり
あか土の

やなぎ葉は
岩手峰
澄むことは

夕顔瀬
滅びにし
くすだまの
おどろなる
はた燃ゆる

深きはざまに
苔の眞清水
揺りて走りし
誰か聞きたる

風鳴り疾く
朴のふる樹に
とゞろく時し
野にほとばしり
いかづちの神
根裂き岩裂き
底ひも見えぬ
色となりけむ

芽ぐむといへど
映るといへど
とはにあらなく

おぼろ夜ふけて
やかたの森に
昔がたりは
矢鳴り雄たけび
たるきの崩れ

平泉
うもれにし
葉もれ日の
きららなる
み佛と

人の世の
世の人の
大うづの
眞青なる
いつの日か

北上川
遙かなる
水沫まき
すゝき穂の
陸奥ひろ野
陸奥とほ野

夏草なえて
みたちのほとり
いざなふ夢は
こがねしろがね
いくさ人らと

栄えうつろひ
生き死にのあと
よどみに消えて
みなみ海原
出でむとすらむ

北上川
流れのきはみ
うろくづ散りて
なびかひさはぐ
雲荒るゝ空
雲垂るゝ空

## 三陸海岸

作詞　水原　一

いや果ての
高潮と
いつの世に
きざみけむ

琅玕の
海原や
日の宮へ
のど赤き
とし毎に

沖つ波
椿散る
なぎさべに
しづきたる
やむよなき

さぐもりの
たゝずめば
朝なゐに
大津波
悲しきは
まなの子が
くろ髪の
鬼火飛ぶ

國土のきは
あひうつ所
如何なる神か
奥の荒磯

濃きをとかせる
眼路もはるかに
かよふ彼方は
つばくろ群れて
帰り來る道

邊つ波しるく
入江をひたし
ゆたに揺るれば
またま白たま
銀のかゞよひ

五百つ岩むら
思ひもあらた
とまの家崩れ
こゝに逆巻き
ゆきて帰らぬ
波間の姿
亂るゝなべに
おぞき事ぐさ